

展示会で配るノベルティ、お得意様に贈る記念品をあらためて考える 自社の“企業ミュージアムグッズ”を作ませんか

企画連携課 古郷 彰治

もらってうれしいノベルティグッズ?!

展示会で自社ブースに立ち寄ってくださった方々や名刺交換をした方々にどんなノベルティを渡しておられますか?自社を印象づけるためにいろいろ工夫されていると思います。Webで「ノベルティ」を検索すると、じつにさまざまな種類や価格帯の商品を扱っているショップが出てきて「人気ランキング」というコーナーもあります。でも人気の上位は殆どが実用品や便利グッズで、果たしてそれが自社に興味を持ってもらえるきっかけになるのかどうか。「オリジナルグッズを作ませんか」というサイトもありますが、よく見るとオリジナル=名入れであることが分かります。社名と電話番号が入った実用品をもらって困ることはありませんが、どうせなら自社の技術や製品のことを楽しく伝えるグッズを用意してはどうでしょう。

プレミアムなギフト?!

例えば大切な取引先の方が自社を訪ねて来られたときに、お土産や記念品としてどんなものを差し上げておられますか?老舗や百貨店で逸品を選び、社名を添えて渡しておられるのでしょうか。こちらもせっかくなら自社の技術や製品、さらには歴史や経営理念などを感じていただける、本当の意味でのオリジナルなプレミアムグッズを作ってお贈りするというのはいかがでしょう。

企業ミュージアムグッズ??

そこで提案したいのが「企業ミュージアムグッズ」という考え方です。一般にミュージアムグッズというと博物館や美術館のお土産を思い浮かべますが、それらはただ楽しいだけでなく、そこで見た展示の感動や感激の記憶を何らかの形で残したい、持って帰ってまた思い出すきっかけにしたい、そういう思いに応えるものでもあります。その企業版だと思ってください。

自社の技術や製品はもとより、歴史や経営理念などの企業文化を象徴していて、しかも楽しさや感動を提供できるようなオリジナルのノベルティやギフト、それをここでは「企業ミュージアムグッズ」と名付けてみました。

企業ミュージアムグッズに求められる要件は

企業ミュージアムグッズを制作するにあたって、ぜひ欲しい要件をいくつか挙げてみます。

- その企業らしさを直感的に感じさせる
- そして京都らしさも感じさせる
- その企業の技術や製品の特徴を表現している、想起させる
- その企業の経営理念や歴史、企業文化を象徴、感じさせる
- シンボリックなパターンを作って、トータルに展開できる
- 加工途中の状態や様子を見ることができたりする
- 魅力的で遊びゴコロもあり、思わず欲しくなる
- 一般に販売されておらず、購入はできない などなど

企業ミュージアムグッズの具体的なヒント

これまでに展示会や研究会などで見つけた、ヒントになる品々を紹介します。そこに会社のプロフィールやそのグッズに使っている素材、技術などの解説カードを添えるだけでも、魅力的で楽しい企業ミュージアムグッズになっていくと思います。

1) 薄板金属プレス技術で成型されたアシナガバチ



薄板金属加工の最上インクスさんがプレス技術を駆使して成型されたアシナガバチは「京都ものづくりフェア」

で子どもたちにもものづくりの楽しさと大切さを伝える教材になっている。他にチョウやアメンボなども。

2) 金色と銀色の基石のような金属製のコマ



金属の切削加工が専門の協和精工さんが展開するオリジナルブランド「Teyney」シリーズのボードゲームに

入っているコマは、その加工技術とアイデアで、ただ持っているだけでも楽しい。

3) 木村染匠さんの「乙女のキモノぬり絵」



キモノ文化を知る、自分の好きな配色を考えてみるなど、手描き友禅のお話を身近に感じてもらうための「乙女のキモノぬり絵 木

村のひながた」には同社が創作し蓄積してきた図案のひな形が使われている。

4) 自社の Mascot が造形されたゴム製のキャップカバー



ゴムの成型加工を行なう西山ケミックスさんの新入社員研修の成果。社内外の人とのやり取りを通して、一か

ら自分たちで企画したことを形にするためには何が必要かを考え実践。ノベルティとしても活用。

5) ナプキンリングを兼ねた経木(へぎ)皿ホルダー



新工芸研究会が「上質な花見」をテーマに研究開発を行なったアイテムの一つ。ホルダーの切込みに経木を反らせて差すことで向付のお皿としても使える。同じ形で素材や文様の違うバリエーションがある。

6) 京都の工芸を学ぶ教材「いっすんキューブ」



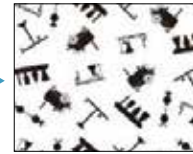
当センターが「子どもの頃から本物に触れる」「楽しみながら学べる」「思わず欲しくなる」というコンセプトを創

出し試作した工芸品の工程標本。1寸角の立方体を基本ユニットに京漆器編からスタートした。

7) 京都の工芸を学ぶ教材II「いっすんリング」



いっすんキューブのバリエーションとして平安陶花園さんに試作いただいた清水焼の工程標本のリング。普段は見るできない素焼き(左)の質感や色を知り、本焼きでどれだけ収縮するかも実感できる。



明治期の「理化器械目録表」(製品カタログ)に掲載されていた理化学機器を文様としてパターンを創作。

8) 河合楽器製作所さん(静岡)のピアノの部品



ピアノ工場を見学した際に記念にいただいたもの。弦を叩くハンマーのヘッドで、鍵盤の数だけピアノの中に入っている。普通はこれだけを購入することはできない。

トータルなお誂えのものづくりで企業価値をさらに高く

新工芸研究会×島津製作所

企業ミュージアムグッズの考え方をさらに発展させ、大切なお客様のおもてなし、応接室や会議室の設え、お客様の心に残る記念品、日々の仕事で使うステーションナリーなど、モノからコトまでトータルにプロデュースし社内の各部門で共有活用することで、より企業価値が高まり、お客様にさらに熱烈的ファンになっていただくことができます。当センターで支援する新工芸研究会が、京都府と地域活性化包括連携協定を結んでいる島津製作所さんに対し京都の伝統工芸を活かした「お誂えのものづくり」を提案し活用された事例をご紹介します。

Concept Work) 企業モチーフを発見しパターン化

歴史や物語がある企業のイメージを表現するため、社内見学やインタビューを通じて象徴的な3つのモチーフを発見しパターン化した。



初期の医療用X線装置ダイアナ號の操作盤のメーターが特徴的な形であるためキャラクター的にモチーフに。



現在は資料館となっている創業時の社屋に使われているステンドグラスのパターンを整理してデータ化。

Products) 基本パターンを活用して具体的なアイテムに

ビジネスのシーンとして「迎」「儀」「設」「贈」「業」という5つの場面を設定し、前項の3つの基本パターンを展開。工芸をはじめ京都のものづくりの技術や素材を活かした具体的なアイテムをトータルにプロデュースしてデザイン開発し提案。



(左)ダイアナ號の計器板をモチーフにした和三盆の落雁。敷かれた懐紙には理化学機器の文様を型押ししてある。(右)ステンドグラスのパターンを交趾(こうち)技法で表した清水焼のペアカップ。



(左)パターン化した理化学機器の文様を織り出した西陣織の裂地で作ったマスクケース。(右)同社のクロマトグラフ装置と同じ成分分離の原理を利用した絞り染のスカーフ。

京都の企業ミュージアムグッズ・コレクションへ

今回ご紹介したコンセプトや事例を参考に、ぜひ御社でも企業ミュージアムグッズの制作に取り組んでみてください。京都の企業それぞれのミュージアムグッズができれば、それを集めるのも新たな楽しみになりそうですし、その一大コレクションを京都の玄関口やターミナル、見本市の施設などに展示できれば「ものづくりの京都」を俯瞰できるモニュメントとして、また取引先を直感的に探すインデックスとして楽しく機能するのではと思います。

制作にあたっての企業モチーフの探索や伝統工芸とのコラボ等についてはお気軽に当センターにご相談ください。

●お問い合わせ先 / 京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画連携係 TEL:075-315-8635 E-mail:kikaku@kptc.jp

KYOTO DESIGN WORK SHOW

2/17(木)~18(金) 開催決定

時間 10:00~17:00
場所 京都ビジネス交流フェア2022 会場内(京都パレスプラザ)



今や自社製品や新商品開発に欠かせないデザイン。京都府中小企業技術センターが、京都ビジネス交流フェアの会場内に開設する、「KYOTO DESIGN WORK SHOW(キョウトデザインワークショップ)」は、ものづくり(工業製品)を得意とされるデザイナーさん達が出展され、普段はちょっと聞きにくい「料金」や「仕事の事例」などを直接、その場で気軽に質問や問い合わせ、相談ができる、貴重な機会です。